

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

学校法人青森田中学園
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人青森田中学園 青森中央経理専門学校並びに青森中央文化専門学校は
令和5年度第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので報告致します。

●開催日

令和5年 8月23日(水) 13:30～14:40

●開催場所

本学園9号館(学術交流会館)3階 934教室

●企業等委員

栗原 良明 氏 (ライフプランニングフォース 代表)
永井 栄 氏 (医療法人白鷗会 まちだ内科クリニック 事務長) 欠席
高坂 麻子 氏 (公益社団法人 青森観光コンベンション協会/ねぶたの家 ワ・ラッセ 副館長) 欠席
太田 智三 氏 (青森市横内町内会 町会長)
樽澤 康太 氏 (株式会社ティエル・マネジメント/青森中央経理専門学校卒業生)
今 順司 氏 (青森県アパレル工業会・株式会社蓬田紳装 取締役工場長) 欠席
泉谷 里奈 氏 (株式会社 アプティマルワ/青森中央文化専門学校卒業生)

●学校側

石田 憲久 (学校法人青森田中学園 理事長、
青森中央経理専門学校 校長、青森中央文化専門学校 校長)
櫻庭 肇 (学校法人青森田中学園 事務局長)
鈴木 伸吾 (青森中央経理専門学校 主任教諭)
曾我 武 (青森中央文化専門学校 主任教諭)
塚本 大広 (青森中央経理専門学校 教諭)
佐藤 紋子 (青森中央経理専門学校 教諭)
大水 咲良 (青森中央文化専門学校 教諭)
竹洞 春佳 (青森中央文化専門学校 教諭)

●次第

1. 開会あいさつ

学校法人青森田中学園理事長
青森中央経理専門学校校長
青森中央文化専門学校校長 石田 憲久

2. 出席者（委員）紹介

→資料に基づき、出席者を紹介

3. 規定・位置づけ

→資料に基づき、規定・位置づけを確認

4. 令和4年度自己点検評価結果について

→概要と取り組み状況・成果について説明

○基準3 教育活動

→令和4年度は授業アンケートの質問事項の見直しを図った。青森中央経理専門学校研修旅行について、新型コロナウイルスの感染状況により令和2年度は規模縮小しての実施、令和3年度は中止となったが、令和4年度は2年生のみではあったが東京方面への研修旅行を実施することができた。

○基準4 教育成果

→令和5年3月末時点での就職率は青森中央文化専門学校が100%、青森中央経理専門学校が92.8%であった。また、令和4年度の退学者は青森中央文化専門学校が3名、青森中央経理専門学校が4名であった。

○基準6 教育環境

→学園設置校の学生全員にoffice365のアカウントを付与し、授業等で活用しており、特に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う休校処置がとられた際には、リモート授業に切り替えて授業の継続を行うことができた。

○基準7 学生の募集と受入れ

→令和5年度入学者数は青森中央文化専門学校が9名、うち指定校推薦制度での入学者数は4名であった。青森中央経理専門学校が20名、うち指定校推薦制度での入学者数は15名であった。

○基準10 社会貢献

→青森中央文化専門学校では、令和4年度もファッションショー「Bunka Fashion Live」を開催した。令和3年度まで実施していたオンライン配信から、従来通り客席を設けての発表形式とした。青森中央経理専門学校では、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策を図ったうえで、青森県総合社会教育センターでのパソコン講座を実施した。また、公開講座「自分にプラスの人生設計を考えてみよう！家計と資産形成のライフプランセミナー」も実施することができた。

5. 質疑応答・意見交換

→委員の皆様から自己点検・評価報告書に対する質問・意見等頂く

委員からの質問・意見等	質問・意見等に対する回答
<p>専門学校に入学した学生には、専門性を極め、それぞれのコースに即した分野で活躍してほしい。それに伴い、学校としても教育の質の向上を目指してほしい。</p>	<p>観光コンシェルジュコースではここ数年コロナ禍で業界の募集自体がなく他の業界へ就職する例も見られたが、求人数も回復傾向にあり、昨年度卒業生はJR 東日本びゅうツーリズム&セールスに就職することができた。コースに即した就職のサポートは引き続きしていく。</p>
<p>PC・iPad を必携化したとのことだが、メリット・デメリットはあるか。</p>	<p>青森中央文化専門学校ではiPad を必携化。メリットはコロナで休校になった際も遠隔で授業に対応できたこと、デメリットは授業中に学生に触らせると何を見ているかわからないことが挙げられる。メリットの方が大きい。</p>
<p>最近学生のファッションの捉え方はどうか。県内と県外（東北・関東）での違いはあるか。少子化で生徒数も減ってきている中で、どのようにPRしていくかが大切になってくると考える。ファッションショーの写真などを活用し県内の中学・高校へPR したらいいのではないか。</p>	<p>最近の傾向だと作る方が弱い。全体的にファッション系を目指す人が少なく、本校でも定員割れが続いている状況。広い意味でファッションを捉えられるようにPR していく。進学だと県内から首都圏のファッション系専門学校へ行くケースも見られるが、家庭の事情や県内で通いたいという学生が本校へ入学している。弘前市のサンモードスクールオブデザインでも学生数は減少傾向。秋田県にファッション系専門学校がないということもあり、数年に1～2人秋田県の方から本校へ進学するケースも見られる。PR においては、Instagram を活用した広報を行っており、ファッションショーもYouTube で見られるようになっていたのでより多くの方に見ていただけるようにPR していきたい。</p>
<p>観光業界が盛り返ってきており、特に青森県としても観光へ力を入れている今、地元企業への就職を目指してほしい。</p>	<p>業界がにぎわってくるとともに需要が高まってきている。今年度卒業予定の2年生は県内のホテル関係に内定している学生もいる。人手不足という追い風もあるが、今後もコースに即した就職をサポートしていく。</p>

<p>Bunka Fashion Live について、コロナ禍でのオンライン配信と実際にお客様を目の前にしてパフォーマンスするときでは学生の気持ちの違いなどはあったか。</p>	<p>オンライン配信だと基本的に無観客のためリハーサルと本番の区別が曖昧だということもあり、学生のモチベーションを保つことが難しかった。やはりお客様を目の前にすると学生の緊張感が増し、ステージに対する熱量も数倍上がっているように感じる。</p>
<p>青森中央経理専門学校では就職率が 92.8% と高い水準をキープしているが、就職が決まった業種に特徴はあったか。</p>	<p>経理事務コースだと事務職や期間雇用の公務員、医療事務コースは医療事務・調剤事務へ就職している。令和 4 年度の特徴としては、青森中央学院大学への編入学をした学生がいたことが挙げられる。設置校への編入学だと学費の減免もあり、編入学ができるということもアピールポイントのひとつになると考える。</p>
<p>ここ数年の学生はおとなしく感じる。発言が恥ずかしいのか、あいさつや意思表示もできない学生、新入社員が多い。コミュニケーション能力の向上を目指してほしい。</p>	<p>自ら発言する力は足りないと感じる。授業内でも自ら発言する機会増やすなどして対応する。コロナ禍に 3 年間高校生活を送り、授業内でもあまり発言をしてこなかった世代が次年度入学してくるので、より意識して指導していかなければならない。</p>

6. 次回日程（案）

→資料に基づき、次回日程（案）について説明

7. 閉会挨拶

学校法人青森田中学園事務局長

櫻庭 肇

以上をもって、終了した。